

研究室と共同研究を行う機会に恵まれ、研究室間の壁が比較的低いことが物性研の大きな特徴であると感じておりました。受賞対象となった本研究成果をはじめ、共同研究を通じて数多くの新しい研究展開が生まれたことは、大変貴重な経験となりました。今後も、物性研で培った経験を大切にしながら、産総研において研究活動をさらに発展させていきたいと考えております。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

文 献

- 1) S. Tanaka, Y. Murotani, S.A. Sato, T. Fujimoto, T. Matsuda, N. Kanda, R. Matsunaga and J. Yoshinobu : Appl. Phys. Lett. 122, 251101 (2023).
- 2) R. Kameyama, S. Tanaka, Y. Murotani, T. Matsuda, N. Kanda, R. Matsunaga and J. Yoshinobu : Opt. Lett. 49, 3978 (2024).



吉信先生と吉信研研究員の亀山さんとともに受賞式会場での一枚。左が著者

